

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-4-2 子育て福祉の充実

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 青少年家庭課長 黒田利恵 電話番号 0852-22-5242

事務事業の名称	子どもと家庭特定支援事業	
目的	(1) 対象	一時保護や特別な支援が必要な児童や家庭
	(2) 意図	児童の心身や養育上の問題を軽減する
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 一時保護：家庭で養育ができない児童等の安全確保や行動観察を行うために、児童相談所において一時保護する。 ひきこもり等児童集団指導事業：不登校やひきこもり等の児童に対して、自主性や社会性を養うため、キャンプ等による集団指導を実施する。 親グループカウンセリング事業：子育ての知識・方法の習得や親同士の交流のため、育児不安等を抱える保護者を対象にグループカウンセリングを行う。 	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	親グループカウンセリングの開催回数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		42.00	45.00	48.00	69.00	
式・定義	児童相談所や市町村が実施する親グループカウンセリングの開催回数	実績値	39.00	31.00	39.00	65.00			回
		達成率		73.80	86.70	135.50			%
指標名	式・定義		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	90,963	118,526
うち一般財源(千円)	75,520	104,082

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 児童相談所内一時保護の状況（延べ日数、1人あたり在所日数）
(H26) 6.682日 19.4日/人 (H25) 5.980日 18.1日/人
- ひきこもり児童等の集団指導実施状況（開催回数、延べ参加者数）
(H26) 5回 92人 (H25) 5回 90人
- 親グループカウンセリング（児相・市町村）の実施状況（開催回数、延べ参加者数）
(H26・児相) 18回 92人 (H25・児相) 19回 111人
(H26・市町村) 47回 166人 (H25・市町村) 20回 64人

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- 安全確保や支援検討のための行動観察等の理由により保護が必要な児童について、児童相談所等で一時保護することができた。
- 不登校やひきこもり等の児童に対して、野外での炊飯・活動や相互交流等を行い、自主性や対人スキルの向上につながる体験ができた。
- 平成26年度に市町村が主催する親グループカウンセリングは県内で合計47回行われ、特定の市町村での取り組みが増え、参加した保護者の育児不安の軽減や育児方法・知識習得につながっている。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- 家庭での養育が困難で、一時保護を必要とする児童が増えている。
- 学校で不適応を起こし不登校になるなど、対人関係に困難さを抱える児童が多い。
- 乳幼児を養育中の親の中には、経験や知識不足により子どもの養育や対応に困っている親がいる。

②困っている状況が発生している「原因」

- 経済的状態、家族環境、育児方法、子どもの状態など、多種多様な要因が重なり、家庭での養育の困難さにつながっている。
- 発達障がいや愛着障がいの問題を抱えた児童の中には、その特性から良好な対人関係を築き難い場合がある。
- 核家族や一人親家庭等で、身近に育児支援者がおらず育児について相談したり学ぶ機会がない場合がある。

③原因を解消するための「課題」

- 家庭での養育が困難な児童を一時保護し、児童や家庭の特性を見極め、対応方法や家族調整等の支援を行う必要がある。
- 児童の特性や状態に合わせて社会性や自立性を育てる支援策が必要である。
- 身近に育児支援者がいない親や育児不安を抱えた親に対し、子育ての方法を習得する機会や親同士の交流の場を提供する必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 家庭で養育ができない児童等について、必要に応じて一時保護を実施し、行動観察や心理面接等の所見を活かして養育支援につなげる。
- 一時保護中の児童にも教育の機会が必要であるため、一時保護中の学習支援を保障する。
- 発達障がいやひきこもりの児童に対して社会性・自主性を伸ばす機会を提供するため、集団での社会生活体験活動を実施する。
- 市町村・児童相談所において、育児不安等を抱える親に対し、親同士が交流しながら共に子育てについて学ぶ機会を提供するため、グループカウンセリングを実施する。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）